

平戸市民病院

3月ということもあり、同期のいない一人での研修となりました。平戸市民病院で研修医が一人というのはかなり久しぶりだということでした。私はもともと田舎が好きということや、「なんとかなる」という楽観的な考え方なので、一人での平戸の研修にも全く不安はありませんでした。平戸までのフェリーの旅もすごく新鮮で、ついてからも大自然と美味しい食べ物に囲まれて予想通りすごく充実した1ヶ月でした。新しいことに挑戦するのが好きなので、この1ヶ月で釣りにもチャレンジしました。これまで釣りはほとんどしたことがなかったのに、1ヶ月でなんとかひらめを釣りたいという目標を達成するために、ほとんど毎日のように海に繰り出しました。病院では、朝の健診エコーを独り占めできたり、訪問診療に行つて自分の判断で処方したり、一人のメリットを感じるの方が多かったのです。もちろん常に指導医の先生方がフォローして下さっているので安心して研修することができました。1ヶ月と短い間でしたが、充実した研修生活を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

小原 有一朗 (神鋼記念病院)

青洲会病院

2ヶ月間の研修が終了しました。

青洲会病院では、様々な部署での研修を経験させて頂く

ことで、病院の機能の全体像を描くことができました。

また、地域との関連では、離島や訪問診療を経験させて頂きました。受診するまでに医療者もしくは患者さんの移動時間がかかるため受診できる医療機関に限られている現状を目の当たりにし、「人口が少ない過疎地域では、あれもこれも、というのではなく、医療に何が最も求められているのかを見極めなければいけない」と強く思うようになりました。

この度は貴重な機会をありがとうございました。今後のキャリアでも、青洲会で学んだことを生かしていきたいと思つています。

大熊 彩子 (東京大学医学部附属病院)

柿添病院

1ヶ月間、多くの事を学ばせて頂き本当にありがとうございました。家からの一歩でれば海が広がっており、自然に囲まれながら過ごした1ヶ月間でした。



柿添病院での研修は様々なプログラムがセッティングされており、特に印象に残つたのは訪問リハビリテーション研修でした。平戸からフェリーに乗つて度島に行き、リハビリを行いました。ここで感じたのは夜間救急外来にかかろうとしても船に乗つて行かなければならず、都心部の様に歩いて受診できる環境とは全く違うため、訪問時にいかに患者さんとのコミュニケーションが大切かを実感しました。これは訪問診療も同じことが言えると思つています。船に乗つて30分以上かけて受診される患者さんのことを考えると、医師として患者さんはいかに寄り添つて診療を進めていくかということが大切であると再認識させられました。今後の医師として歩いていく上で大変貴重な経験となり、忘れられない訪問研修となりました。

研修だけではなく、休日には生月島の灯台まで行き、絶景を楽しむことが出来ました。また、魚料理がおいしく、お刺身を何皿も食べてしまったことを思い出します。研修も観光も経験することの出来た1ヶ月であり、とても充実した日々を送ることが出来ました。

最後に柿添先生をはじめ、サポートして下さいましたスタッフの方々に感謝申し上げます。

安藤 克敏 (東京大学医学部附属病院)

生月病院

1か月間という短い時間でしたが、島民の方々、スタッフの方々の温かさに触れながら和気あいあいとした研修生活を過ごすことができました。人口が6000人を切り、少子高齢化もすすむ島での医療を、外来・健診・予防接種を通して院内から、往診・訪問看護・施設回診を通して院外からの2方向から見ること、今まで自分の中で抱いていた「医療」という概念がいかに狭かつたかを痛感させられたと同時に、島の医師・看護師に限られた資源の中で、どう戦っているかを肌で感じる事ができました。

三寒四温の3月でしたが、スギが少ないせいか花粉症も発症せず、釣りもグルメも楽しめ、公私とも充実した研修でした、ありがとうございました。



松岡 優毅 (嬉野医療センター)

平成29年3月24日

発行：ながさき県北地域医療教育コンソーシアム

<http://agonet.jp/>